保存版

「ぐんぐん学力アップ事業」～家庭との連携による学力向上シリーズ（３）

家庭での学習支援のために

～　「やった!」「できた!」「わかった!」を子どもと共に　～

相生市学力向上委員会

平成29年4月

目次

１　毎日の家庭学習について
（１）学習ノートをうまくまとめるには
①小学校　・・・・・　１
②中学校　・・・・・　２
（２）宿題を効率的に行うためには　・・・・・　３
（３）読書好きにさせるには　・・・・・　４
２　長期休業中の課題について
（１）読書感想文　・・・・・　５
（２）科学研究記録　・・・・・　６
（３）絵画・ポスター　・・・・・　７
（４）人権作文　・・・・・　８
（５）書写　・・・・・　９

相生市では，子どもたちの確かな学力の定着に向け「ぐんぐん学力アップ事業」を行っており，民間の「標準学力調査」や全国学力・学習状況調査を活用して課題を明らかにし，小学校と中学校が連携して系統性・連続性のある取り組みを進めています。

これと併せて，これまでに家庭向けリーフレットとして「家庭学習の手引き」「家庭で身につけたい生活習慣」を発行してきました。この度，保護者からの「日々の宿題や夏休みなどの宿題を効果的にやらせる方法があれば」という声に応えるべく，３作目のリーフレットを作成しました。自ら学ぶ子どもたちを育てるには，学校での授業だけでなく，安心して生活できる家庭で，安定した生活リズムの中，継続して学習に取り組ませることが大切です。

子どもたちは家族に認められ励まされることで「がんばってよかった」という充足感を持ち，「見守られている」という安心感の中で自信を持つようになります。ご家庭における学習支援の参考にしていただき，子どもたちの実態に合わせたご活用をお願いします。

1　毎日の家庭学習について

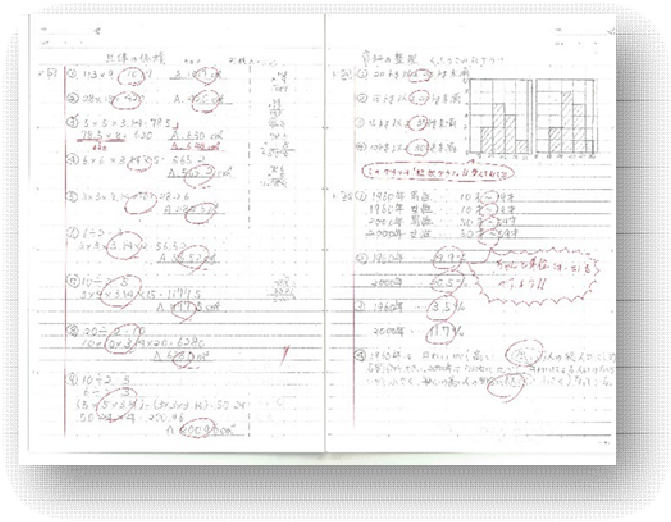
（1）学習ノートをうまくまとめるには

①小学校

ノート作りの原則

1　ノートは自分の学習の足あと
2　授業のめあて，まとめは決めた色でかこむ
3　ていねいに，正しく，美しく
4　線は定規でまっすぐに
5　大事なところは囲む，線を引く，色を変える
6　絵や図なども使ってかく
7　家で一回，ノートでふりかえり
8　見つけよう「違うところ」「似ているところ」
9　メモしよう「疑問点」「わからないところ」
10　説明しよう「自分の言葉」で

［ふりかえりノートの例］



⇩

各教科ノートのふりかえり参考例

小学校１・２年

・ひらがなやカタカナや漢字の筆順に気を付けて練習する。
・漢字を使って言葉づくりや文づくりをする。
・教科書を見ながら同じように写す。
・算数で学習したところをもう一度やる。

小学校３・４年

・学習した漢字を繰り返し練習して，正確に書いたり読んだりする。
・ローマ字を繰り返し書いたり読んだりして覚える。
・学習した内容をドリルなどで復習する。
・学習した図形を正確にかく練習をする。

小学校５・６年

・正しく読み書きができるよう繰り返し練習する。
・学習した内容をドリルなどで復習する。
・間違えた問題をもう一度やってみる。
・理科や社会は内容をノートにまとめ直し学習を深める。

おうちの方へ

整っていることだけでなく，子どもの学びの足あとがわかるノートであることが大切です。子どもの学ぶ意欲を高めるためには，教師の助言や励まし，保護者の温かい声かけが大きな役割を果たします。

②中学校
自主学習ノート

家庭での学習習慣を育てます

毎日，家庭学習をすることで学習習慣が備わってくると，効果的な学習ができやすくなります。書くことによって頭に入りやすくなりますので，初めは書いて覚える学習習慣から身につけると有効です。学習習慣が身に付き，一日一日を大切にしていくようになると，生活面にも良いリズムが生まれます。

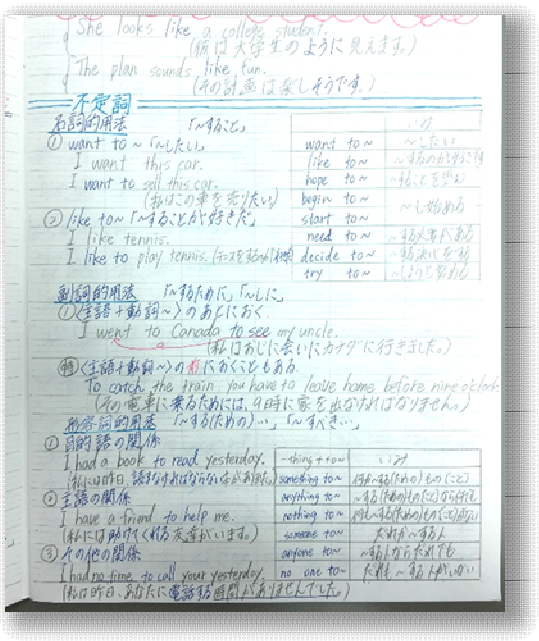
自分で自分を高めます

中学校での学習内容を自分で練習してできるようになることは，これからの学習や生活において自分の可能性を大きくしていきます。ただノートに書くだけという安易な学習に終わらせず，学習内容に目的や目標を持ち達成できるよう工夫しながら進めます。達成感を味わうことは，学習の成果だけでなく自分を高めることにもなります。

結果を出す学習にします

漢字テストや単語テスト等の小テストや定期考査等に向けた学習の中で，しっかり練習すればすぐに点数アップにつながる学習をすることも有効です。良い結果が出ると，励みになったり自信が出てきたりしてより頑張れるようになります。繰り返し練習することで基礎学力の定着が図れます。

［自主学習ノート参考例］



ふりかえり参考例

- 新出漢字を繰り返し書いて覚える。
- 社会などは教科書とノートを見比べて学習した内容を振り返る。
- 数学などは授業中に解いた問題を自主学習ノートに書きだしてもう一度解く。
- 実験などの資料を読み取る練習をする。
- 単語や文型は繰り返し書いて覚える。

おうちの方へ

毎日の取組は小さな一歩だとしても、積み重ねるとき確かな一歩となるはずです。実のある学習になるよう、時々ノートを見てあげてください。

（２）宿題を効率的に行うためには

１　スタート時刻を決めて習慣化

「これをやってから･･･」というような子どもには，スタート時刻を決めておきます。開始時刻を〇時と固定するもよし「帰宅して〇分後」と変動する時刻でもかまいません。子どもの実態は常に把握してほしいです。時間を見つけて宿題に目をかけるようにしてください。

２　勉強場所はダイニング

リビングやダイニングなど，家族が集まる場所で宿題をさせることがおすすめです。

自室での学習は漫画などの誘惑も多く，特に低学年にとっては集中しにくい環境といえます。また，保護者が近くで家事などをしていると，「大人は仕事，私は勉強」というように，自然に自分のすべきことが自覚できることもあります。

３　タイムアタックでスピードアップ

計算など，スピード重視の学習では時間を計るようにすると，てきぱきと宿題を済ませることができます。ただし，漢字の練習など丁寧に時間をかけるべき宿題には適しません。それぞれの宿題で何を重視する学習なのかは，判断してあげてください。

４　後回し「３０秒ルール」

子どもがやる気をなくす理由には「わからない」があります。子どもにとってわからないことを自力で解決することは，とても難しく嫌になってしまいます。そこでおすすめするのが小学生には「３０秒ルール」，中学生には「１分ルール」です。３０秒考えてもわからない問題は，飛ばすというルールで学習を進めます。後で疑問に答えてあげるか，付箋などでチェックして学校に持たせてください。

５　「宿題したの?」は禁句に

「宿題したの?」と聞かれると，していてもしていなくても，子どもはテンションが下がります。宿題をしたかどうかを尋ねたいならば，「宿題わかった?」と聞いてあげてください。わからないところがあれば一緒に取り組む，まだの場合も一緒に取り組む。そうすれば，穏やかに宿題に向き合えるようになります。

おうちの方へ

子どもの代わりに勉強してあげることはできませんが，やる気のスイッチを入れるきっかけを与えることはできます。子どものタイプや状態によって声かけや方法を工夫して，勉強に向かわせてあげてください。

（3）読書好きにさせるには

1　いい本との出会いは、いい人との出会いに似ている

本は「独学の友」とも言われ，読書を通して日本語の力が増し，知識が広がったり集中力が増したりします。読書は，生涯にわたって独力で成長を続けることを可能にします。本を読む時間を持つように家庭で習慣づけたいものです。「読書の時間」を設ける，親子で図書館に行く，親も一緒に本を読むなど工夫し，子どもが読書の楽しさと出会えるきっかけを作ります。

2 名作や古典だけが読書ではない

保護者の中には，「自分が読んでほしい本」を子どもが読まないことに不満を持たれる方がおられます。名作や古典と呼ばれる小説を読めば，何となく良いことがありそうな気になるのかもしれませんが，伝記や歴史もの・小説など，それぞれに関心が高まる時期は発達段階によっても好みによっても異なります。

3　読みたい本を読ませること

無理やり読ませようとすると，ますます本を敬遠しかねません。読みたい本を読ませます。「うちの子はどんな本も読まない」という保護者がおられるかもしれません。今は本を手に取らないとしても，かつては絵本や図鑑に興味を示していたかもしれません。どんなジャンルからでも，子どもが興味を持った本を受け入れることからサポートを始めます。

4　出かけたついでに書店へ

家族で出かけた際など，ついでに書店を訪れ，子どもが手に取った１冊を買ってあげることをおすすめます。その１冊は今まさに読みたい本として，「これはダメ」と否定せず，その本を受け入れることを心がけます。

5　途中でやめることも

本を読み始めたら干渉せずに本の世界に浸らせます。もし，本がつまらなくて途中でやめてしまったとしても，読むように促すことはしません。読まないことを選択する自由を与えることで，読書が気楽なものになります。

おうちの方へ

自分の心に響く一冊を見つけた時の喜びを子どもにも体験させてあげてください。

親子で自分の好きな本を読む時間を取ることにより，読書を好きになるだけでなく，親子関係がさらに深まることを期待します。

２　長期休業中の課題について

（１）読書感想文

①本を選ぶ

ア 年齢や好みなど，自分に合った本を選びます。
イ まわりの人にお勧め本を聞くことも参考になります。
ウ 学校や市立図書館などで探したい本を見つけます。

②本を読む

ア １回目　一番おもしろかったところなど，だいたいの感想をつかみます。
イ ２回目　気になるところにマーク（しおりや付箋）をしながら読みます。

おもしろい　かなしい　腹が立つ　ジーンときて涙が出そう びっくり　自分にも似たような経験がある　どうしてだろう ふしぎ　初めて知った　誰かに伝えたい　ドキドキ　･･･など

ウ ３回目　気になったところを中心に読んで自分の考えを確かめます。

③作文を書く

ア 書き出しの工夫（５つのコツ）
　1 本を読んだ感想から書きます。
　2 本を読んだきっかけから書きます。
　3 一番心に残った場面の文章を使って書きます。
　4 会話から書きます。
　5 疑問に思ったことから書きます。
イ 文章の組み立て
　マークをつけた材料をもとに構成（はじめ・なか・おわり）を考えます。

構成例

はじめ　読んだ本の名前 ← 本を選んだ理由 ← 本のあらすじ ←
なか　心に残ったところ ← それまでの物語の流れ ← 感想 ← そう思った理由 同じような体験から 自分におきかえて想像 ←
おわり　本を読んで学んだこと どのように生かしていくか

④気をつけること

ア 一行目から本文を書きます。応募票をつけるのでタイトルや名前は書きません。
イ あとがきなど，人が書いた文章を使うときは「　」をつけて，引用したことがわかるようにします。

おうちの方へ

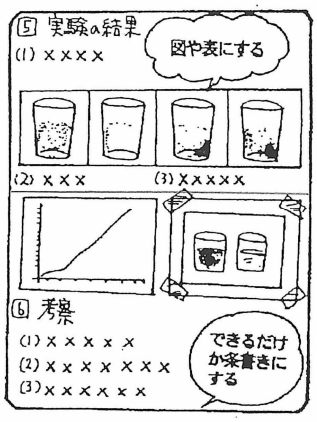
子どもが自力で作文を書くことは難しいものです。本を読んでいろいろ感じ取ったことを言葉で表現する過程で，上手く文章が作られるようサポートしてあげてください。

（２）科学研究記録

①テーマを決める

ア これまで学習したことからもっと調べたいと思ったこと。

イ 身近な自然や科学について，おもしろいと思ったこと。



②計画を立てる

無理のない日程で計画を立てます。

ア いつ，どこで，何を調べるか。

イ 調べるのに必要なものは何か。

ウ 実験や観察をどのようにするか。

ェ どうまとめるか。

③観察・実験をする

ア 安全に気をつけて観察・実験をします。家の人とよく相談して進めます。

イ 気づいたことは小さいことでも記録します。失敗の記録も役立つので残します。

ウ 観察・実験したことを整理して，正しくていねいに書きます。数，大きさ，形，色，におい，時間など正しく記録することが大切です。

ェ 生き物（動植物）を観察する人は，ていねいにスケッチします。スケッチできないのものは写真を活用しますが，基本はスケッチです。

オ 貝殻やこん虫などを採集する場合は，いつ，どこで，誰が集めたのかラベルに書いて付けていきます。

④まとめる

ア まとめるもの　スケッチブック，画用紙，ノートなど

イ まとめ方

1 研究の題名

2 研究の動機‥研究をしようと思ったわけやきっかけを書きます。

3 調べ方‥何を，いつ，どこで，方法，使った道具，材料，機器などを書きます。

4 予想‥これまでの体験から理由を考えて予想を立てます。

5 結果‥表やグラフ，絵などを使ってわかりやすく書きます。

6 考察‥予想と比べて結果はどうか，その理由も考えます。

7 研究のまとめ‥観察や実験，採集などしてわかったことを書きます。

8 研究の感想と今後の課題‥心に残ったことや新しい疑問などを書きます。

9 参考‥参考にした本や資料の名を書きます。

※優秀作品をまとめた「科学研究記録集」を毎年作成しています。相生市立図書館で閲覧できますので，不明な点がある場合は参考にすることができます。

おうちの方へ　実験や観察が思った通りに進むことはめったにありません。「失敗は当たり前」というくらいの気持ちで取り組ませます。失敗した原因を一緒に考えることで研究が深まります。

（３）絵画・ポスター

①絵画

構図が絵の大部分の印象を決定します

ア 絵の中心となるものがよくわかる構図を選びます。

イ 遠近感や奥行きの感じられる構図を選びます。

ウ 写真を撮り，構図を決める手掛かりにしてもいいですが，既成の写真は使いません。

しっかり描き込みます

ア マット水彩（小学校で使用しているもの）は色の調和がとりやすいです。ポスターカラーを使用する場合は，薄めて重ね塗りの効果を出しながら使います。

イ 混色，重色など，絵画の表現方法を工夫します。

市内児童作品

②ポスター

ア ポスターについて

・テーマに対して「言葉とデザイン」で，気持ちや伝えたいことを表現します。

・デザインを工夫し，目立つ色で描きます。

・文字の位置は上，真ん中，下のどこでもかまいません。はっきりと描きます。

イ 予備知識を持つ

・「人権」などテーマが難しい時は，インターネットや本で調べます。

・テーマから，気を付けてほしいことや問題になっていることを考えます。

ウ 別紙に下がき

・どれくらいの大きさで描くかバランスをとります。

・薄く色鉛筆などで描いてイメージを持ちます。

ェ 画用紙に下がき

・画用紙を傷めないよう鉛筆は先が丸くなったものを使い，消しゴムも軽く使います。

・文字は大きさ，書体を整えて書きます。印刷した文字を参考にすると書きやすいです。

ォ 色を塗る

・絵，バック，文字の順に塗ります。

・バックや文字の部分は絵の具を少し濃く溶いて、ペンキのように塗ります。

・バックの部分が完全にかわいてから，文字の部分を塗ります。

市内児童作品

おうちの方へ

絵は描く人の個性が強く出ます。色がムラになったりはみ出したりして，気になることがあるかもしれませんが，子どもの意欲を大切にしてあげてください。

（4）人権作文

『人権（じんけん）』ってなんだろう

人間が人間らしく幸せに生きるために，生まれながらにもっている当然の権利のことです。

『人権文化（じんけんぶんか）』ってなんだろう

日常生活の中で，お互いの人権を尊重することを，自然に感じたり，考えたり，行動したりすることが定着していることです。（例えば、混んだ電車やバスで，高齢者や体の不自由な人に出会ったとき，声をかけたり自然に席を譲ったりすることや，雨の日に自転車のスピードを落として泥水がかからないようにするなど相手のことを考えて行動することなど。）

人権作文☆３つのステップ☆

ステップ１→ステップ２→ステップ３の順番に考えをまとめて書きます

ステップ１　こんな問題があるよ

《こんな問題は自分のまわりにないだろうか？》

いじめ・仲間はずれ・悪口・スマホによるトラブル・うわさ話
高齢者・障がいのある人・インターネットを悪用した人権侵害
働く人の権利・子ども・女性・同和問題・外国人・戦争や平和
無関心な態度・環境と人に関わる問題　等

学校や家での生活の中でおかしいな･･と思ったことはないかな。

ステップ２　こんなことを体験・経験したよ

ｱ 学校や放課後の中で
ｲ 学校の学習で
（道徳、教科、学活や総合的な学習の時間など）
ｳ 家族や友だちと出かけたとき
ｴ 家族とすごしている中から
ｵ 本や新聞やテレビから
ｶ ボランティア体験から

こんなことがあったよ。
こんなことを見たよ。
こんな話を聞いたよ。
そのときに思ったことや考えたことも書けるといいね。

その体験や経験から思ったことや考えたことがあるよ

ｱ 「なんか、へんだなあ。」（ひっかかり）
ｲ 「なぜ？どうして？」（疑問）
ｳ 「ちょっとおかしいのでは？」（いきどおり）
ｴ 「何とかしたい。」（問題意識）

ステップ３　これから自分はこうしていくよ

ｱ 今までの自分とこれからの自分を比べて
ｲ これからの自分の行動や生き方を考えて
ｳ こんな社会になればいいのにと考えて

ステップ１やステップ２から，自分はこれからどうしたらいいかな･･･。

（５）書写

①書く姿勢

ｱ 背筋を伸ばし視野を広くし，紙面を見渡します。
ｲ 大きな動きがスムーズにできるようにします。
ｳ へその位置に机の高さがくるようにします。
ｴ 背筋を伸ばしたとき両足がつくようにします。
ｵ 紙の左下を軽く押さえます。

書く姿勢

②筆の持ち方

ｱ 親指，人さし指，中指の三本で筆を持ち薬指を添えて持ちます。
ｲ 力まずに軽く持ちます。
ｳ 筆は立てて書きます。
ｴ 手首を使わずに，ひじを浮かせて筆とひじを連動させて書きます。

筆の持ち方

③筆の使い方

筆使いには「とめ，はね，はらい」などの基本があります。「永」の文字には基本点画が多く含まれており練習に使用されます。

「点」：筆を下ろしたら少し右上に引き，終筆は押し戻すように筆を上げる。

「折れ」：横画の終わりで止め，筆の軸は回さずそのまま下へ進める。

「横画」：始筆は穂先の向きに気を付けてゆっくり筆を下ろす。送筆は筆の軸を回さずに同じ筆圧で運ぶ。終筆は筆を止め穂先の方へ押し上げる。

「右払い」：徐々に筆圧を加え最大になったところで筆を止め，徐々に筆圧を弱めて穂先をそろえるように払う。

「左払い」：徐々に筆圧を弱め，終筆は穂先をそろえるように払う。

「たて画」：穂先は左側を通る。終筆は止める，払う，はねるなどがある。

おうちの方へ

画の長短を意識して文字を書いたり，漢字の横画を少し右上がりに書いたりすると，文字が整って見えます。声かけのポイントにしてください。